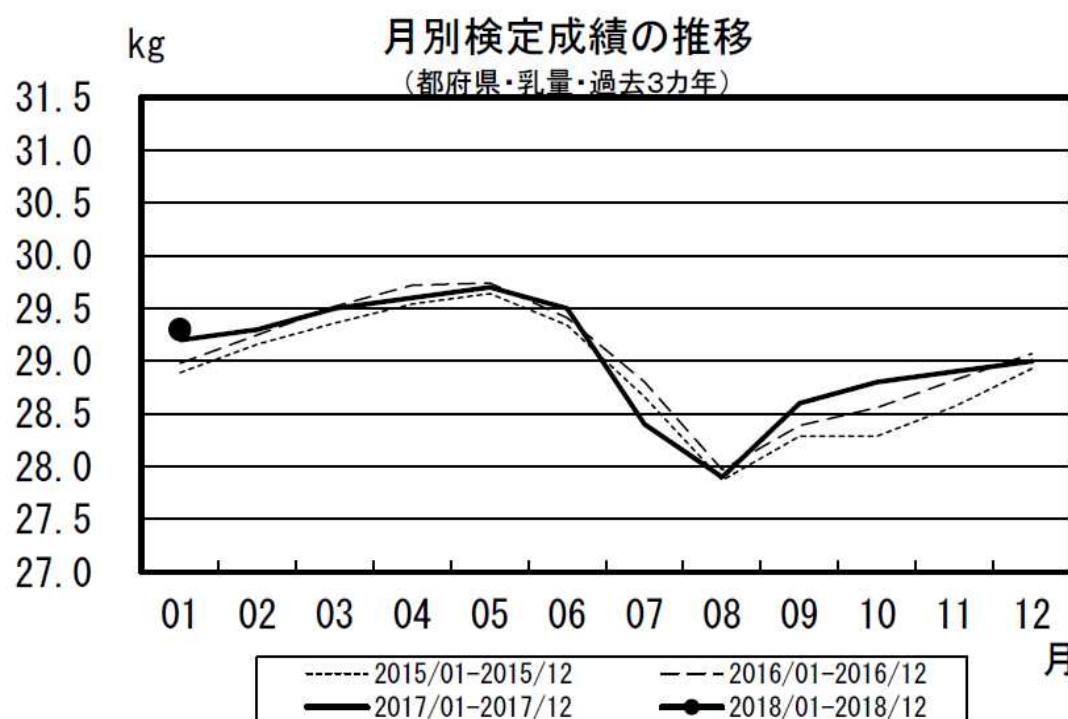


牛群検定の利活用などについて、解説記事を掲載しています。

- 1 全酪新報 2月1日号 全国酪農協会
牛群検定ワンポイントレッスンその56 搾乳牛頭数は適正数維持を
経産牛頭数にしめる搾乳牛頭数の比率から、様々な牛群管理の課題を見つけられます。
- 2 大地 1月号 よつ葉乳業株式会社
牛群検定から見る現場に役立つ繁殖情報 第4回 分娩後の初回授精日数について
初回授精は子宮の回復をみる大事な指標です。 [よつ葉乳業](#) [検索](#)
- 3 デーリイ・ジャパン 1月号 デーリイ・ジャパン社
「繁殖台帳Webシステム”ポケカウ”」
気象情報カウダスやスマートフォンを利用した牛群検定データの活用
- 4 家畜人工授精 1月号 (一社)日本家畜人工授精師協会
最近の乳用牛群検定成績から その3
牛群検定からみた分娩および子牛生産状況について
- 5 L I A J ニュース 1月号 (一社)家畜改良事業団
新しい牛群検定成績表について (その52)
年間子牛生産状況について③ [検定成績表見方](#) [検索](#)
自家生産牛と導入牛の比率

これから春先まで乳量をもっとも増える時期です！



まだまだ、寒い気候が続きますが、これから春先は左図の通り、乳牛の泌乳量をもっとも多くなる季節です。高まっている泌乳能力を落とさないよう健康管理に気をつけてください。

1 換 気

閉ざされた空間では、糞尿からのアンモニアガスにより、採食量の低下や乳量減少につながります。また、子牛の肺炎の原因にもなります。

2 水道の凍結

水が飲めないと、乳量が減少します。できれば、冷水よりも加温した方が、採食量の向上につながると言われています。

3 牛床や通路の凍結

ホールディングエリア等が凍結すると、牛の転倒を招き、肢蹄の故障のみならず、流産、早産といった分娩事故の原因にもなります。

4 風の吹き込み

搾乳後にディッピング剤等で濡れたまま冷たい風に当たると、乳頭が乾燥し肌荒れなど乳頭を痛めます。

5 子牛の保温

子牛は、ルーメンが未発達なので発酵熱を得られないことから、寒冷に大変弱く寒冷対策が必要です。十分な敷き藁、ジャケット、防風対策などで保温維持に努めましょう。

冬季の乳量計の取り扱い 凍結に気をつけて！

乳量計は、食品である牛乳が通過する送乳ラインの一部です。また、乳量を測る精密機器です。汚れは、測定誤差を生むだけでなく、不衛生な管理は乳房炎等の遠因にもなり得ます。常に衛生的な洗浄が求められます。一般的なミルカー等との自動洗浄だけでは不十分です！必ず、定期的な酸洗浄や分解洗浄を励行してください！また、厳冬期は分解洗浄後に水気を拭き取り、速やかに乾燥させましょう。濡れたまま凍結させると、故障の原因となります。

アルカリ洗剤による洗浄	： 毎回（自動洗浄等）
酸性洗剤による洗浄	： 3～4日ごと
分解洗浄	： 1週間から1カ月ごと

※ 厳冬期は洗浄する際の水温にも気をつけてください。一般的には主洗浄に必要な湯温は、排水時で40度以上ですが、洗剤の正しい使用法をご確認ください。



ほこりまみれの外側



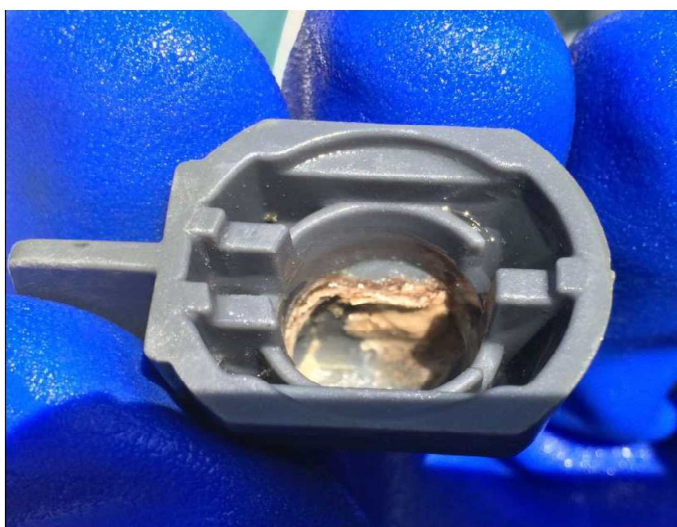
流れの悪いところがチーズ状に



ゴムリングと本体の間がチーズ状に



こんなにもチーズ状に



サンプル採取ノズル(F型)内部



バルブインナー内部